

第 8 号

発行所
鎌倉市材木座6-17-19
光明寺中神奈川教務所内
浄土宗神奈川教区青年会

発行人
里見嘉嗣
編集人
石川到 覚
森本祐 康
伊藤彰 哲

川奈神青浄

光明寺法主石井真峯台下御染筆

宗祖法然上人御生誕、八百五十年の慶讃を目睫にするとき、清水光致会長の御退任に伴い、このたび会員諸師の御推薦を頂き、神浄青第四代会長の大任を拝受することになりました。

前会長、清水師の御労苦に感謝申し上げると共に、今後、監事として浄青活動に御助力を頂戴できるのは心強い限りです。

宗教人の奮起が期待される現下において、諸先輩諸師をさしおいてお受けしたのも、純粋性を持つ、本当に若い世代の青年宗侶が中心となり、今後の布教教化のありかたを考究し、衆生のニーズに答えるべく、青年らしい行動をせよとの試練を与えられたと理解している。

神浄青も歴代会長諸師、会員諸師の努力により様々な活動を展開してきたが、会員の固定化、各組、組織の再検討等、問題はある。神浄青が斬新な企画と行動により、会員の勧誘と組織の充実をはかる事は必須である。

更に全国浄青等、組織の肥大に伴い政治化する危惧もある。

座折を知らぬ若い世代が、お互いのオピニオンを語り合い、連帯と結束を深め信仰の純化につとめる。それは恐れを知らぬ若さの特権であるが、大海に向け、小船を漕ぎ出した浄青が、舵取りを一步間違えれば危険な道を歩む



絶えまない自覚と努力

会長 里見嘉嗣

事になる。全国的にその傾向がみうけられるのは残念である。青年宗侶の持つ純粋性をお互いの精神的苦悩をとおして活性化をはかる事が必要であると思う。微温湯につかる青年宗侶であってはならない。

世に知的エリートと呼ばれる人のなかに、葬儀業に化した既成仏教とか、寺院を私有化し、教化を放棄し、寄附だけを集める仏教とか、現代に於いて寺院から救いを求めるのは無理であると痛烈な批判を浴びせている。謙虚に反省しなければならぬが、しかしな

活動がいきでくる。困難な道ではあるが会員相互の絶え間ない自覚と努力がやがては雨だれも石を穿つ事になる。難解な言葉を駆使し、気のきいた言葉をいう人は多くいるが、今年、来日したマザーテレサのように言葉に、これほど重みをもたせられる人となると、どんなものでしょうか。自らの宗教体験と、すべてを抛って奉仕する姿が言葉の重みとなってでてくる。「物足りて心貧しき人々の国」という別れの言葉を残していかれたが、まさに宗祖法然上人そのものである。宗祖の厳しい

がら多くの人は救いを求めている。果てしない荒野を彷徨する衆生に、現実の社会生活をとおして本願称名念仏の教えを恢弘する事が使命であるし、又批判にこたえる道でもある。それに

祖の御教え御心を自分自身の命として受けとる事にその意義があるのではないかと思う。

は忍苦精進の生活体験のなかにこそ、自行、化他が生まれてくるのではないかと思う。「艱難、汝を玉にす」の至言もある、明治以後のヨーロッパ近代主義、戦後の民主主義のなかで育ってきたあらゆる社会層の人々との接触のなかで、マクロ的視野をもって今日の社会状態、人心を把握してこそ化他の

以上述べてきたが、私自身観念的に了解しているにすぎない。会員諸師とたとえ、牛歩であっても着実に歩みだしている今こそ、苦楽を共に心情を共にして人間浄化の原点を忘れずお互いに精進を期したいものである。

諸大徳、会員諸師の御指導、御協力を切に願う次第です。

子ども会について

長福院住職
柴 田 哲 彦

子ども修養会の手引

最近の社会現象の中で特に目につくことといえば、校内暴力等の少年非行の激増とその低年齢化ということであろう。

その原因追求と対策は常にマスキをにぎわしているが、その対応は我々宗門人も宗教というテーマで真剣に取り組まねばならない問題だろう。

ここでは、ささやかであるが、地域社会の児童を対象とした児童教化の一例として、港北組蓮勝寺の子ども修養会を紹介してみたい。

この修養会は夏休を利用して開催されているが、毎週毎月の開催ではない。夏休利用の一泊二日を開催とした理由は、最近の児童は学習塾等で日常が多忙、また寺院側でも休日の法務集中化で対応ができない。以上の点から夏期一泊二日の開催となった。

さてその修養会であるが、宿泊と食事準備の能力から定員を五〇名として三、四班を編成できるようにする。

日程は、おつとめ・別時念仏・修養のおはなし・清掃・体操・スイカわり・ゲーム・フォークダンス・歌・自主活動（寸劇等）・キャンプファイヤー等を二日間にア

レンジして実施している。

この中、修養会として最も重要視しているのが、おつとめ、と修養のおはなしである。

おつとめは、全員の焼香からはじまり、つきかげの歌・仏の子どもを合唱。ちかいのことは（私達は、み仏さまのおしえのごとく、明るく、正しく、仲よくいたします）と十念を同称させて終る。



修養のおはなしは、釈尊と法然上人の教説を基盤とした宗教人としての信念を、平易に情熱をもって説く、注意すべきは短時間でま

とめることであろう。

総体的には遊びを主体とはしているが、短時間にして要所はしめておくことと、「信は莊嚴より」のことは、子どもについてもいえることで、夜の境内でほおずき提灯を手にしながらの念仏行道等、情緒面からの配慮はきわめて大切なことと思われる。

わずか二日間でも寺での生活は子ども達にとっては生涯忘れぬ体験だ。人間形成に際しては決して、少ない影響とは思われない。指導員の大半は修養会の体験者である。今年で十八回目を迎えたが参加者の将来が楽しみでならない。

電話布教の手引き

如実苑 坂 野 泰 巨

このテーマについて六八〇字の原稿依頼です。これは、私のやっている「子供ナムナムでんわ」と同じ字数で、一二〇秒（二分）のお話になります。

もう一つの「ダイヤル法話」は約八〇〇字で、一五〇秒（二分三〇秒）です。

私が電話布教を始めたのは昭和四十九年でした。まず、一、着信専用電話を電話局に申し込みます。二、アンサホン（留守番電話）を

設置します。これで準備OKです。しかし、電話をかけてくれる人がいなくては困ります。そのPRをどうするかを考えてください。

さあ次は原稿づくりです。どのような内容にするかは、あなたの判断によります。私は通仏教内容にしています。内容交換を一週間ごとにすることも可能です。ある宗派ではあなたの自由です。ある宗派では毎日交換しています。

アンサホンの操作は、単純ですから四、五分もあればマスターできます。

私は法話のバックに仏教音楽を入れています。はじめはストンプウオッチをにぎりながら苦勞しましたが、慣れるにしたがって、音楽の流れで時間がはかれるようになります。

今日は情報化時代といわれていますが、ほんとうは「情報禍時代」でもあります。こういう時代こそ、わかりやすく、迅速で、正確な技法が用いられねばなりません。

その意味では、電話は安価で簡単であります。

電話布教に限ったことではありませんが、何といっても苦勞するのは原稿づくりです。しかし、始めた以上は絶対にやめられませんが、継続は力なりをお忘れなく。ではご活躍を期待しています。

心の糧

1

三男のことは

—知 恵・その心—

司 仁 野 平 職 住 寺 仲 宗

今日の恵まれた文明社会に生きる私たちは、精神面では必ずしも物質面の豊富さに比例していない事実を体験しています。それどころか、高度な文明の渦中に身を置きながら心の安定を得られず苦悶している人の世の現実を目にします。着々と設計された人生、緊密な組織の織りなす、さまざまな背景をもつ人生模様の中で醜い衝突は絶えません。

一方、消極的な生き方をしていくのかのように見える人々の言動には、派手で極端なおごりの心を冷ます作用があるのも事実です。ここに人生の妙味がありこの機微は注目に値するでしょう。

先日、或る商家であつた通夜での出来事もその一つです。老店主が亡くなり遺族として老妻と三人の息子夫婦がいました。長男は大企業のエリート族で、両親とは別居中。事実上この店を運営し親と同居しているのは次男夫妻。三男は農業が好きで、義務教育を終えたとすぐに農家へ養子入りしました。どこにでもある遺産相続をめぐる緊迫した雰囲気がかここでも同様に何冊かの預金通帳を囲んでにらみ合い、供養そのものの有様で

す。長男の妻は父親の死が近づく頃から、それまでは久しく足を運んだことのないこの家へ度々やって来て、俄に病人の世話を始めました。長男の立場にあることと、家事を犠牲にして足しげく通つた当然の権利として、今後は家を継ぎ多額の遺産を期待しています。沈黙と反目の繰り合わせの後、やがて日頃は無口な三男がぼつりと



開口しました。「いつもぜいたくをしないでお父さんたちの世話をよくして、家の商売に励んでいり小さい兄さんにまかせよう」と。この時、三男の妻が何かに打たれたように顔をあげ、「これまでうちの人は大きい兄さんとは違って少し足りないと言われてきたけれど、今改めてうちの人の言う事が最もだと思います」と言いきった。

次男の妻も「お義母さん、こんな欲づくめで心の無い兄さんたちから離れてさあ、出て行きましょう」と続いた。

何気ない三男の一言がこの場を救つたようです。職場ではエリート道を歩んでいる長男夫妻も全く肌合ひの異なる三男によって諭され、自分たちの身勝手な利己主義の転換を促されることになりました。

十九世紀の生んだ世界の大文豪として名高いトルストイの『ワンの馬鹿』もこれと同様な含蓄をもち、少々のろくても中庸をわきまえた人間性の勝利を示唆しています。人生は実に多くのエピソードの連続ですが、この流れの中で凡庸さが真理を導く端緒となり得ます。それに気づく人はすでに心の耕作が始まっていると言えるでしょう。釈尊の教え「耕す人」つまり、Kulue(クルツール)と同義なのです。明春の法然上人ご生誕八百五十年目を控えてお待ち受けの佳き日です。この慶事にちなみ「物事の理をさとり是非善悪を弁別する心の作用」と説明される知恵の本質を見極め、自己の円熟したみのりの秋にしたいものです。

仏事のこころえ (一)作法について

専念寺 伊藤 彰 哲

合 掌

〔意味〕

合掌というのは、印度の敬礼法の一つであつて、胸の前に両掌を合わせ、馳散している心を專一にさせ、仏に対する恭敬の意を表わす作法である。

〔種類〕

浄土宗の合掌には、堅実心合掌と又手合掌の二種がある。

〔作法〕

堅実心合掌というのは、両掌を正しく揃え、胸の辺りに少々斜めに、堅く相合して、掌中を空虚にしているといけない。(写真)

〔留意点〕

(1)まず、十指を真直ぐに伸ばす。
(2)次に、合わせた両掌の中はすき間をあけないで、しっかりと閉じ合わせる。
(3)次にその手を胸の前面乳の間に約45度位の角度で持つて来る。
(4)その時、両肘は張らずに自然のまゝ、両脇に玉子をはさんだ位の気持で。
又、又手合掌については、こゝでは略す。

数珠 (念珠)

〔意味〕

仏・菩薩を礼拝する時、手に掛け、念仏の数を数えるのに用いる法具である。

〔顆数・珠の数〕

顆数については、百八(即ち煩惱の数)が基本となっており、その半数の五十四顆、更にその半数の二十七顆等の一連の数珠が一般



的である。又、この他に百八を十倍した一千八十顆の数珠(百万遍数珠)等もある。

〔種類と形状〕

莊嚴数珠、日課数珠、百八数珠、百万遍数珠の四種類である。本来であれば、それら一一について説

明を加えなければならないのであるが、こゝでは、普段一番多く使う日課数珠について説明したいと思う。形状は下図の通り二連になつてゐるのが特徴で、それに環で繋がつた弟子が付いている。顆数についても下図の通りで、20顆×25顆(実数は27顆だが、内2顆は息継用として数に入れない)×60顆(弟子の顆数を掛け合わせた数)〓三万遍操りと、40顆×25顆×60顆〓六万遍操りの二種がある。因に、前者は洛東一心院の称念上人、後者は鹿ヶ谷法然院の忍激上人の創作と伝えられている。

〔作法〕

合掌した時は図の様に両母珠を揃え、両空指(親指)に弟子が手前に来る様懸ける。それ以外は、左手首に懸ける。そして、木魚等を叩きながら念仏する時は、左手で操り、そうでない場合は、右手で操る。
尚、一連の数珠の場合も同様である。

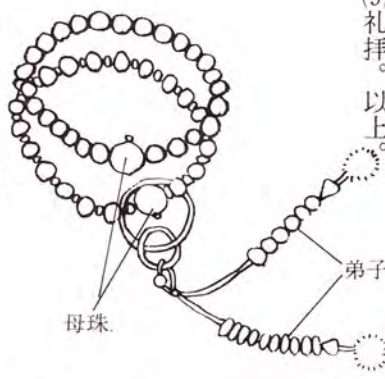
焼 香

〔意味〕

仏に対する供養と共に、薫香によつて我々の汚れた身心を清めるという意味を持つ。

〔作法〕

数珠を持つてゐる場合は、(1)先ず数珠を左手に懸け (2)次に合掌 (3)礼拝 (4)そして空・風(親・人指し指) 二指で香をつまみ、左掌で受け (5)額辺りに載いた後 (6)爐火の上に薫する (7)それからもう一度数珠を持ち換え (8)合掌 (9)礼拝。以上。



〔回数とその意味〕

一回は一心不乱の意。二回は戒と定との香を焚く。三回は貧瞋痴の三毒を清める意味である。線香を一本乃至三本立てるのも同じ意味である。

菩提寺

浄土宗神奈川教区青年会発行

組だより

港 北 組

港北浄青は五月に役員改選を行いました。改選に先立ち四月に毎年恒例の「花まつり」を、港北組二部専念寺において釈尊の御誕生を地域の多数の子供の参加により祝いました。

また、五月五日の「子供の日」に、第四回港北組、港南組対抗ソフトボール大会並びに家族親睦会を開催し楽しい一日を過ごすことができました。

そして、役員改選後五十六年から五十七年前半までの事業活動について次のとおり計画いたしました。

一、毎月定例研修会の開催（毎月第三日曜日）会員相互の親睦と青年僧侶としての資質の向上を目ざし、知識を広め法式修練を行う。
二、「花まつり」の開催（昭和五十七年四月）毎年恒例の「花まつり」に宗祖の御生誕八五〇年を記念し釈尊並びに宗祖の御生誕を祝う。
以上の他にも毎年定例的になっている事業についても計画を立て

ていますが、当面はこの二つの事業を主として浄青活動を行う予定である。

小 田 原 組

小田原浄青は今年改選期を迎え、新会長に戸松氏、副会長に石川、千葉両氏が選出された。

新体制の活動方針は、(1)托鉢行(2)布教研修(3)法式研修(4)親睦である。上半期の主たる活動状況は、本年国際障害者年に向け昨年末、小田原駅頭にて托鉢募金し、約六万円の浄財を小田原市社会福祉協議会に寄託した。

また神浄青花祭り愛のプレゼント活動に際し、小浄青独自に身障児童施設光海学園を訪問、合唱、紙芝居、釈尊のスライド等をし有意義な体験を積んだ。

例会活動も着実であり、四月は施餓鬼会実習、五月には北邨執事長による回向、下炬に関する講説、六月例会は大河内先生を迎え、葬儀式中の鎖籠起籠奠湯奠茶の作法を研修した。

また箱根天成園に於て、松蔭、小杉前会長の慰労親睦会も催したが、何よりも毎回十数名の出席者に敬意を表す。

港 南 組

昨年五月二十四日、善導大師一千三百年遠忌組法要厳修に当り、当会発足以来鎌倉浄青と共に研鑽に励んで来た法式研修会の成果を発揮する事ができ、会員多数が式衆として随喜し、報恩謝徳の縁を結ばせていただいた。

また子供の日に恒例となった港北浄青との第四回ソフトボール大会、家族懇親会も例年通り我組の勝利に始まり、和気あいあいの中に親睦の宴を催した。

また利他活動として今年も戸塚駅前に於て歳末助け合い募金を行った。十二月二十二日厳寒の中、会員一同の奮闘よろしく多額の浄財を集め、これを神奈川新聞社に依託した。

五十六年度の予定としては従来通り、法式研修会、ソフトボール大会、懇親会、歳末助け合い募金の継続、及び、年度後半より宗祖降誕に向けての布教研修会を企画しております。

京 浜 組

京浜組浄青は、総会を五月十九日五時より保土ヶ谷見光寺にて開催され、事業報告、会計報告がさ

れた後、今年度の予算、行事計画等を協議した。当日、役員も改選され、前年度にひきつづき会長は見光寺林田真成、副会長は教安寺野呂幸忍、会計は良忠寺森本祐康、書記は一行寺吉水智栄の各師が選出された。

本年度定例会における行事計画は、まず、六月十七日に東京国立博物館で開催されている「仏跡ボルドール展」を見学に行き、林田会長説明のもと有意義な一日を過ごした。十五名参加。他、回向の仕方、法式講習会、新年会、家族親睦会等を予定している。

尚、会員の動静として、新入会員に、専念寺佐々木敬易、淑公両君、青福寺伊藤光史師が入会され、今後の活躍が期待される。また、教安寺野呂幸忍夫妻に次男が誕生された。

高 座 組

組浄青活動も「いざ」となるとなかなか実施することが難しいものです。

その中で、大河内先生を懇請しての法式講習は五十五年度で五年を数えることになりました。基本の作法をまず習得しようと思われ、たこの講習、少しずつではあります、成果が顕れてきたよう

新役員・理事紹介

現在、会員十一名。先輩諸人
のご指導、ご協力を得て、会を充
実させなければいけないと念じて
います。

會員数は、約八名程おり、独自の活動は月例の法式会を開催している。これは、港南組と合同で約3年にも渡っている、昨年度は、法事讃を学び本年は日常勤行式、六時礼讃へと基本へもどって習得している、なんといつてもこれが、組活動の目玉商品だろう。

これからの当組の方針としては、一層の組織造り親睦へともってゆきたいと思ひます。この方向で心機一転し左記の役員と引継ぎます

支部長 伊香輪曉道
副支部長 鈴木 顕雄
会 計 鳥居 真理

の各氏へと改選致しましたので、
会員皆様の一層の御協力をお願い
申し上げます。

總會記念講演は、大本山光明寺執事長・北邨謙順先生を講師にお招きして、光明寺に秘蔵されている「当麻曼陀羅」を拝しながら講話を頂いた。会員諸師は熱心に傾聴し、有意義な時を過した。



次に議事に移り、前年度の各報告事項が承認されたのち、役員改選にともない新役員が選出された。また、規約の一部改正により、編集委員が役員に加わり、新体制でスタートすることになった。

最後に、恒例の加行成満者の方々へ当会より、光明寺御法主御染筆の色紙と浄青バッチをお贈りして成満祝いを行い、総会のすべてを無事終了した。

昭和五十六年度

新役員・理事紹介

[illegible]

—昭和五十六年度—

年間計画

6月6日	光明寺	第一回理事会
6月10日	元町	新旧役員・理事懇親会
6月26・27日	増上寺	第九回閏プロ一泊研修会
7月4日	光明寺	開山忌清掃奉仕・第二回理事
7月27・9日	光明寺	夏季僧堂手伝い
8月26・27日	北海道新善光寺	全浄青一泊中央 研修会
9月6日	光明寺	第二回理事会
9月14・15日	光明寺	法然上人生誕八五〇年一 泊布教研修会

10月初旬	光明寺	第四回理事會
10月中旬	光明寺	十夜前清掃奉仕
10月14日	光明寺	十夜法要手伝い・街頭伝導・念仏行進

10月下旬	光明寺	第五回理事会
11月中旬	宗仲寺	
1月中旬	座間キャン	家族親睦会別時念仏
未定	未定	一泊理事会
2月下旬	未定	他宗見学
3月上旬	光明寺	第六回理事会
3月下旬	光明寺	総会
4月中旬	未定	花祭り愛のプレゼント

後記

編集の作業をしていると、各組の活動状況が気になるが、その活動が沈滞気味の組もあるとか。

新会長の下に尚一層の会員諸氏の努力を期待したい。